

第14回「朝日のびのび教育賞」受賞（報告）

2013年2月

全国のインターネット市民塾による青少年教育活動が、朝日新聞社より表彰を受けました。

子どもたちが手仕事職人の技や仕事のやりがいを学び、将来の職業を考える体験学習活動が、第14回「朝日のびのび教育賞」を受賞しました。

この活動は、子どもたちが記者となって手仕事職人を取材し、Web記事にまとめるもので、ものづくりへの興味関心や、社会で働く職業観を育てるとともに、情報教育の一環としても役立てるものです。

活動は7年前から職人を取材してきた住民ディレクター活動に始まり、富山インターネット市民塾やチューリップテレビが育ててきました。富山大学人間発達科学部山西教授ほか、子どもたちの学習を導く指導要領を開発。教材には、能面などの伝統工芸品、ガラス造形品、義肢装具、調律サービスなど、さまざまな手仕事を取材した映像63種以上を収録し、子どもたちが仲間と一緒に記事をまとめ発信できる双方向型の電子図鑑として開発されています。さらに全国どこでもこの電子図鑑を用意し体験学習に活用できるとともに、全国の活動で共有できるよう、「クラウド型図鑑」として整備しています。

この仕組みを使って、富山で始まった活動が和歌山、熊本、広島、高知、徳島、藤沢、福島などに広がりました。2月21日は、富山市のタワー111ビルで授賞式が開かれ、全国の活動を推進してきたNPO法人地域学習プラットフォーム研究会が代表して、朝日新聞社より表彰を受けました。

